

# ワンダーランド<sup>せっけいず</sup>設計<sup>ず</sup>図<sup>ず</sup>をつくろう

年 組 番  
名前

○ワンダーランドを<sup>まうえ</sup>真上から<sup>み</sup>見た<sup>ず</sup>図<sup>ず</sup>をかこう


○ワンダーランドを<sup>まよこ</sup>真横から<sup>み</sup>見た<sup>ず</sup>図<sup>ず</sup>をかこう

400m									
300m									
200m									
100m									
0m									

※このワンダーランドの図は<sup>そうぞう</sup>想像のものなので、きよりなどは<sup>せいかく</sup>正確ではありません。

# 図画工作で地図活用 4年～6年 ワンダーランドをつくろう！ 解説

地図帳：『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』

## 1. ワンダーランドをイメージしよう

自分が想像した特別の場所(ワンダーランド)を、平面や立体であらわす活動を行います。その場所がどのようなところなのか、ショートストーリーをつくって、自分だけのワンダーランドをイメージしていきます。ストーリーづくりが難しい場合は、先生がもとになるお話を紹介してもいいと思います。今回はまず、ランド(土地)をつくるのがねらいになっているので、地形に特徴が出るようなストーリーを考えるように投げかけを行います。

## 2. 平面にあらわす

ランドづくりをイメージできたら、ワークシートに土地のようすを記していきます。このとき、ワークシートはA3サイズに拡大し、画用紙に印刷をしておきます。

まず、地図帳p.6の㊦土地の高さに描かれている等高線の説明を利用しながら、ワークシートの使い方を学習します。真上から見た図を描き、自分のランドのようすをあらわします。山や谷、池や川など高さのメリハリを意識して枠の中に地図を描いていきます。ここではストーリーにかかわる細かな特徴を書きこむことより、ベースとなる土地にこだわって地図を描くようにすると後の作業がしやすくなります。

つぎに定規を使って、真横から見た図に高さをあらわしていきます。このとき、高さのちがいをあらわす色をつけると良いでしょう。池や川、海などは一段低くなることをイメージしやすくするために、p.11などにある地形の記号

を参考に、水色などの色をつけると立体に置き換えるときに参考になると思います。

## 3. 立体にあらわす

真上から見た図を切り取ります。設計図を段ボールや発泡スチロール板などベースになる素材に合わせて写し取っていきます。大きなパーツから、それぞれの高さにあったパーツを順番にカットしていき、それを大きなパーツの上に重ねてランドを完成させます。このとき、発泡スチロール板なら、曲線を出すために電熱カッターを使うなど、いろいろな道具も用意すると良いでしょう。

ランドが完成したら、自分のストーリーに合わせた細かな部品を、さまざまな素材を用いて付け足していきます。土地に液体粘土を塗り、乾かしてから彩色したり、布や毛糸などを張ったりして質感を変えてみるなど、表現をくふうするのもよいでしょう。

自分のストーリーに合った材料を考えて、イメージを形づくっていくようにします。

## 4. 観賞する

自分だけのランドをつくってもいいし、何人かの友だちと組んでストーリーを共有し、お互いのランドをつなげて大きな土地にして広がりをもたせるのも面白い表現になると思います。

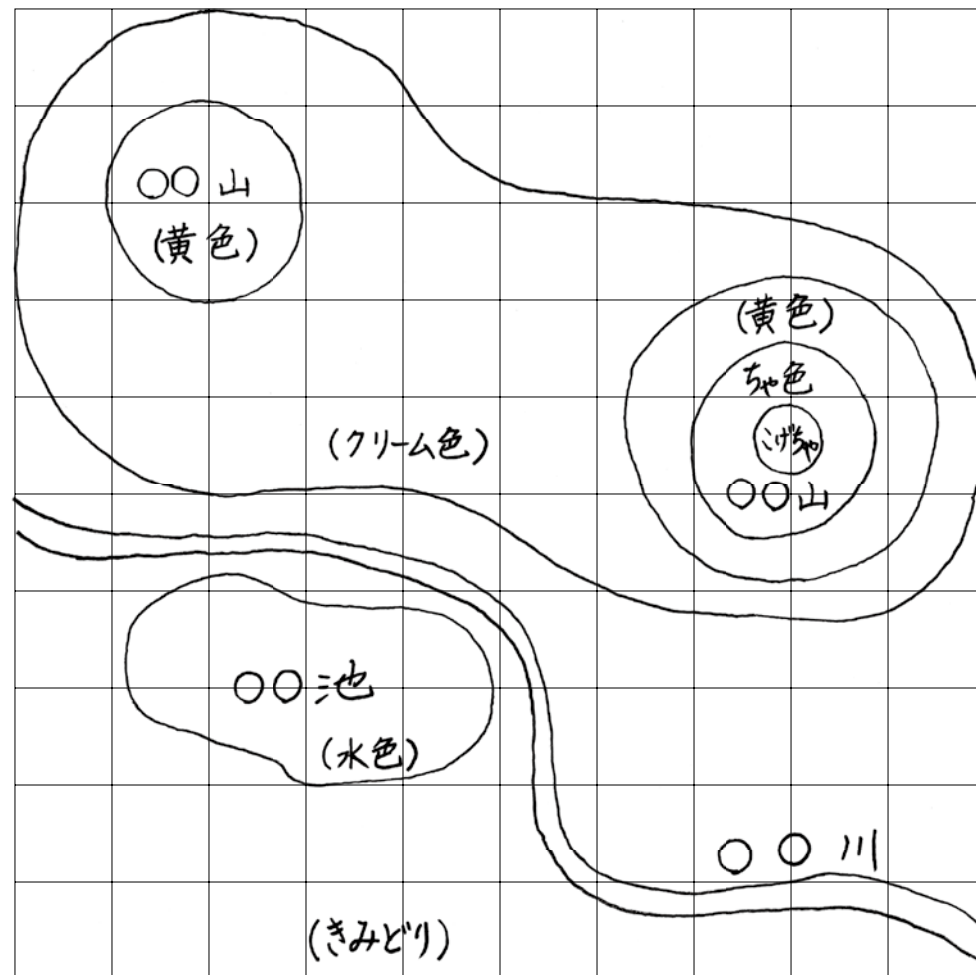
立体とともにストーリーの紹介をする発表を行い、鑑賞し合う活動も考えられます。また、友だちの立体をみて感じたイメージから、新しいストーリーをつくってみるなどの活動もできるでしょう。

# ワンダーランド設計図をつくろう

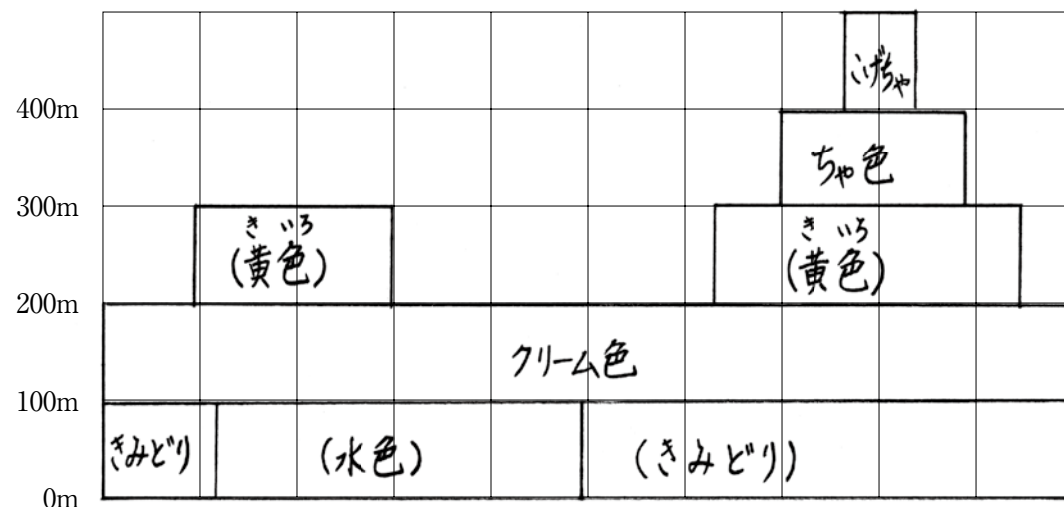
年 組 番

名前

○ワンダーランドを真上から見た図をかこう



○ワンダーランドを真横から見た図をかこう



※このワンダーランドの図は想像のもので、きよりなどは正確ではありません。